



2025年春号 ふくら通信



2025年春号のふくら通信です。桜の花もすっかり散り、若葉がまぶしい新緑の季節となりました。穏やかな気候とは裏腹に、毎年多くの人を悩ませる花粉症の影響で、外出が辛い方も多くいらっしゃると思います。天気予報と共に今日の花粉量をチェックする事が当たり前の日常となってしまいましたね。

昔と今とで様々な変化がありますが、春は出会いと別れの時期という点では今でも変わりません。4月からふくらにも新しい職員が続々と入社してくれました。

また、今年の6月には栃木県宇都宮市に新たな事業所のオープンも予定しております。新しい職員たちが新しい場所で、ふくら色の新しい風を吹かしてくれることを願っております。

時代と共に変わっていく事を余儀なくされる事も多々ありますが、創立から変わることの無い理念と、「ふくらに関わるすべての人を幸福にしたい」という思いを職員一同胸に刻み、みなさまに関わらせていただきたいと思います。

今年度も引き続きよろしくお願いたします。

社長コラム

株式会社福蔵FUKURA 代表取締役 須田 祥子

【宇都宮で新事業所】

大田原市の親御さんから、宇都宮市の南側に重症児デイサービスがなくて困っているという話をお聞きし、今年の6月に宇都宮市さつき2丁目という場所で、重症児デイサービスを開設することになりました。ふくらが事業所を増やす理由は、ひとつには心を大切にしているふくらを利用させていただくことは、利用者様にとって幸せなものと確信しているからです。気持ちを表出しにくい利用者様ですが、心の声に耳を傾け心の通訳者をめ

ざすふくらの職員たちに関われることは幸せなことだと思っております。また、もうひとつには組織が一定の規模になることで安定した運営ができ、利用者様や職員が将来にわたって安心して利用し続けることが出来るようにするためです。大切なお子さんたちの長い人生に寄り添っていきたく願っております。新しい事業所を準備するたびに、ここで過ごされる利用者様が「生まれてきた喜び、生きる喜び、キラキラと輝く時間」を過ごしてもらいたいと心から願いながら準備しております。宇都宮にお越しの際はぜひお寄りください。



【畑を返却】

約5年近く続けていた畑での野菜づくりの目的は、美味しい野菜がたっぷり入ったお味噌汁を提供することと、畑をとおして働くことの大変さや社会の成り立ちを学べる機会になることでしたが、職員にとって介護との両立が困難となり断念することになりました。野菜の値段をつけたり、会計をしたり、袋詰めをしたりと人のお役に立てる喜びもきっと味わえたのではないのでしょうか。また違った形で生活介護の方たちも社会参加と働く喜びを感じられる機会を作りたいと考えております。何か良いアイデアがあったら教えてください。

【リフレッシュの方法】

皆さんはリフレッシュの方法をご自身で見つけておられますか？私は最近、島唄などで有名なBIGINの曲などを聞きながら大きな声で♪イヤサーサー♪と合いの手を入れて自家発電しております。そのBIGINの曲の中で♪働くからこそ休まれる～♪という歌詞があり、頑張るからこそたまの休みが本当にありがたく嬉しいものだ。としみじみ同意をしながら聞いております。ふくらの親御さんたちも本当に大変な思いで日々を過ごされていると思います。先日、森山で茶話会をした時に「朝までぐっすり」と寝たい」と夜中の介護の大変さがしみじみと伝わる言葉をおっしゃっていたのが印象に残ります。兄弟児もいらっしゃるし、日々の生活はつきない仕事に追われると思いますが、ふくらを利用させていただく時間は、どうぞご自分の時間を有効に使ってぜひリフレッシュしていただければと思います。日帰り温泉も充実しておりますので、ゆっくりお湯につかるのも良いかもしれませんね。リフレッシュをすることはとても大切です。現代のストレス社会の中ではなおさらです。それぞれのリフレッシュ方法を楽しみながら見つけてみてはいかがでしょうか。